



= いまの憲法が私たちの暮らしを護る =

## 新型コロナウイルスの下その問題点

## 経済優先から人命優先の政治へ

連日コロナ問題で大変な状況ですが皆さんいかがお過ごしですか。このところ感染者が日々増加し続ける中、旅行に行こうというGOTOキャンペーンが人々を騒がせています。どうしても経済を優先させたい安倍政権の本性が恥ずかしくもなく見えてくるのはどなたもお気づきのことだと思います。経済優先の政策を取れば生命の危険が増すのは明らかな事実です。また人命も経済もどちらも大切と

多くの評論家が主張されています。果たしてそれで人命は大切にされるのでしょうか。例えば医療従事者に対しての安全対策が全くなっていない。ウイルス感染の治療に不眠不休で当たられる医療従事者に、病院経営の悪化を理由としてボーナス支給の減額やゼロ回答の現状に対し政府は何の方針も示していないよ

うです。コロナに影響された医療機関の全てが同じような状況になっています。医療は利益を生まない非生産部門だからでしょうか。その他の産業も影響を受けており、企業を救うため抱えきれない労働者、利益を生まなくなった人が放り出される、これで良いのでしょうか。今回のコロナ災害も不況や戦争時と同様に弱い立場の人々にしわ寄せがきます。緊急事態宣言の中、多くの労働者がテレワークという形態の働き方をする事になりました。満員通勤電車に乗らなくて良いとか、自由な時間に働けるなどの面が強調されましたが、結果として労働時間が長くなり、残業代は請求しにくいなどの調査結果が出ています。今後の働き方としてテレワークを

もつと取り入れる企業が増えることでしょうか。企業にとって事務所を構えなくていい、通勤費を支給しなくていいなどメリットが少なくないようです。反面、労働者にとっては固定給である通勤費が何らかの手当に変わったら最終的には年金、退職金に影響してきます。旅に出て消費するのも経済活動ですが、本当の経済の意味はいかに国民全体の利益を生み出すかにあると思います。これから先、沢山の困難が生じてきますが、そのときの最優先の政策は人命だという政治が必要で

## 緊急事態条項 学習会

夏 1945年8月15日敗戦

## 戦争体験を聞いて語ろう

8月8日(土) 13:30～  
 榎のホール4階 集会室 第1

菊池欣次さんの戦争体験のDVDを見て話し合います。

(コロナ対策の検温・マスクをお願いします。)

共催 野田市戦争語り部の会  
 野田・九条の会



緊急事態宣言と緊急事態条項 どう違うの？

講師 小川 款さん(弁護士)

8月10日(月・祝) 13:30～  
 榎のホール 4階 集会室 第1・2  
 資料代 300円

(コロナ対策のため検温し、マスクをしてお出かけください。先着26人です。お早めに。)

主催 野田・九条の会

## 今月の予定です

\_ 皆さん 気軽に参加ください \_



8月2日(日) 13:30～16:40

DVD視聴「菜の花の沖繩日記」「葬られた危機～イラク日報問題の原点」  
意見交換

南部梅郷公民館

南地域九条の会

8月8日(土) 13:30～16:30

野田・九条の会 8月例会「菊池欣次さんの戦争体験DVDを見て語ろう」

榎のホール 集会室 第1

野田・九条の会

8月9日(日) 16:00～17:00

9の日 九条通信配布・ボードでアピール

行動

梅郷駅 通路

野田・九条の会

8月10日(月・祝) 13:30～16:30

緊急事態条項 学習会 「緊急事態宣言とどう違うの？」

榎のホール 集会室 第1・2 野田・九条の会

8月19日(水) 16:00～17:00

9の日 九条通信配布・ボードでアピール

行動

愛宕駅

野田・九条の会

8月29日(土) 16:00～17:00

9の日 九条通信配布・ボードでアピール

行動

川間駅 北口

野田・九条の会



### ■ 盾から矛への転換とは

6月25日河野防衛大臣はイージス・アショアの配備計画を停止すると発表した。日本の防衛大綱に大きく影響することであり相当な悶着発生かと思いきや、すんなり停止となった。時をおかず自民党からにわかにでてきたのが「敵基地攻撃能力」という新たな装備だ。盾のイージス・アショアがなくなればその代わりとなる矛が必要であると説明している。

その考えは「座して自滅を待つべしというのが憲法の趣旨とは考えられない」との歴代内閣の解釈を基にしており九条の範囲内ともいう。これまで国民の認識は専守防衛を旨とする政権を支持してきたが、ここにきて突然の敵基地攻撃能力を新たに配備しようとの考えは専守防衛からの逸脱としかいえない。

### ■ 国民を守るためとはいえない

自民党の元防衛相小野寺衆議院議員はラジオ番組で与党内議論はこれからとしつつも「相手の元を絶つ」装備の導入を政策的に議論すべきとの考えを示した。この相手とは中国、元をミサイル基地とすればこの考えは国民の命と財産

# 敵基地攻撃能力

を守る政策にはなり得ない。相手が撃ってくる前に敵基地を破壊つまり先制攻撃すると解せば、これは第二の真珠湾攻撃になり、その行く末は目に見えている。緊張した中、中国からの報復攻撃は数十倍、それ以上となり基地、都市さらには原発への破壊で一瞬にして日本は壊滅状態にされる。この反撃能力は、軍事超大国米国といまや覇権を競う軍事大国として核を中心に十分保持している。国家体制は違えどもこの国を敵にできようか。

### ■ 議論をお任せにしない

議論はこれからとしているが早くも敵基地攻撃能力は先制攻撃が強調されやすいとして言い換えようとの動きがある。「自衛反撃能力」、「敵基地反撃能力」さらには「スタンドオフ防衛」などである。これには国民に不安を与えてはならないなどと本質を隠して進めてしまおうとの思惑を感じる。

議論の核心は先制攻撃と九条であり、日中関係の現実をベースに私たちは分かり易く市民レベルで議論し、理解したうえで国会、マスコミそして与党内議論の行方をしっかりと注視したい。

## 太平洋戦争下の二つの記憶

聞き書き 吉田妙子

● 市内在住80代女性 昭和16年4月静岡県東豊田国民学校1年生。12月8日戦争始まる。昼のサイレンが警戒警報ウーウーウーから空襲警報ウ・ウ・ウ・に。家は現静岡駅より1里東の日本平の下。近くにガス会社、三菱重工、高射砲陣地、NHK、護国神社があった。学校では朝礼で教育勅語、1年生の赤いカバンは段ボールだった。日々の生活は土間に防空壕を掘り、ガラスに障子紙を細く切って貼る。夜間の空襲に備えて電器には黒い布を被せた。3年生、B29が浜松から御前崎に入り爆撃。防空頭巾をし親指を耳に小指は鼻、残りの指で目を塞ぐ。米軍機の墜落残骸を校庭に並べた。人の足も・・・農作業、子供の世話が割り当てられ千人針も頼んだ。役場から赤紙が来ると3日で

出征して行った。4年生、学校は軍人の住まいに。二宮金次郎像も鉄として供出。家の防空壕が危ないので橋の下に棚を作り夜を過ごす。原爆は新聞で知る。静岡大火、沢山の人々が波の様にただ歩いてどこへ。8月15日晴12時終戦をラジオを叩いて聞いた。

● 80代女性 小学生の頃兄と近くのキリスト教の日曜礼拝へ通った。当時敵国宗教と見なされ信じる人は当然のように疑われ、憎まれ迫害された。私達も年上の少年達から待ち伏せされ投石された。クリスマスも退役軍人だった牧師が軍服、軍刀姿で宮城遙拝で始まり、入口には土足のままの教頭が会場内を鋭く見まわし姿を消すというもの。柏の陸軍病院へ日曜学校で慰問に行った事もあった。戦後教会は保健所として接收されたことも。兄の記憶と重ね合わせて。